

瑞浪市無形文化財「粉引」について

【文化財の概要】

- ◎分 類 無形文化財（工芸技術）
- ◎保持者 浅井礼二郎（作家名）
- ◎所在地 瑞浪市土岐町大久手
- ◎指 定 平成16年2月5日
- ◎概 要

粉引は、成形した器を白泥に浸けるなどして（白化粧して）、その上に透明釉を施した焼き物です。器の表面が粉を吹いたような風情を見せることから「粉吹」とも呼ばれ、白泥を掻き落とすなどして文様を描くものもあります。

浅井礼二郎氏は土岐市に生まれ、陶磁器デザイナーの日根野作三氏に師事して陶芸を志しました。粉引を中心として作品を制作し、特に凹凸による波文表現の作品が特徴的で、公募展で入選や入賞を重ねるなどしました。

【滅失等の経緯】

令和3年3月19日死去（同日届出）

「大湫神明白山神社例祭」について

【文化財の概要】

- ◎分類 民俗文化財（無形）
- ◎所有者 大湫町神明白山神社例祭保存会
- ◎審議・調査の経緯

当該文化財は平成28年9月に文化財指定の申請書が提出され、文化財審議会で棟札・文書等の調査や審議を行ったものの、山車受領の経緯や祭礼音楽などの文化財的価値付けについては、他の有識者による調査が望ましいとの判断がなされました。

そのため、平成29年度から令和2年度にかけて複数の有識者による調査や記録作成を実施し、この度その成果をまとめた報告書を刊行したことから、この報告書を踏まえて改めて文化財指定について審議をお願いするものです。

【調査成果の概要】

- ◎祭礼の起源・時期・開催日数の変遷
 - ・起源 天保年間（1830～43）には祭礼を執行
 - ・時期 8月（明治3年）⇒10月（明治後半か）⇒10月第一日曜日（昭和41年）
 - ・日数 3日（明治3年）⇒2日（昭和26年）⇒1日（昭和30年か）
- ◎山車の由来等
 - ・形状 名古屋型・素木造、ただし屋根棟端部に御幣を付ける（犬山の特徴）
 - ・由来 名古屋で見舞車として製造（文化5年：1808）⇒犬山に譲渡（時期不明）⇒大湫に譲渡（元治元年：1864）
- ◎懸装幕類の特徴等
 - ・大きくは、現用幕、旧用幕、旧々用幕の3段階に分けられ、現用幕は平成2年頃の制作、旧用幕は昭和58年頃の制作、旧々用幕は明治前半か遅くとも明治後半～大正期頃の制作
 - ・胴幕は前面を除く三方を引き回して掛ける一枚物の幕であり、これは名古屋の山車で古く用いられていた古様な形状。
 - ・最古の幕は明治14年（1881）の墨書銘を有する額幕で、明治36年（1903）に幕入箱が制作されていることから、この頃までには幕類が揃っていたものと推測
- ◎祭礼音楽の特徴等
 - ・山車に関わる音楽としてはハヤシ3曲（正式な名称は無く、一番・二番・三番と呼称）、道行曲4曲（ナカ・イキ・マワリメ・モドリ）がある
 - ・ハヤシの三番は「岡崎」と呼ばれる曲で、県内では岐阜や大垣でも確認されている
 - ・道行曲のナカは「神楽」と呼ばれる曲とみられ、名古屋に（過去には犬山にも）伝わる。イキは「唄神楽」と呼ばれる曲とみられ、名古屋や犬山に伝わる。マワリメは「車切」という曲で、名古屋や美濃各地に伝わる。モドリは犬山祭の「フラワー」に近似する。